



## 価値ある製品を

スズキ株式会社 代表取締役  
専務取締役

### 中山 隆志

#### スズキのものづくりの歴史

1909年10月、スズキの前身である鈴木式織機製作所は、浜松の地に誕生しました。

浜松のある遠州地方には「やрмаいか」という言葉があります。「やってみよう」という意味で、お客様が望まれているものなら、「造ってみよう」「挑戦してみよう」という心意気を表現しています。

国産量産車初の前輪駆動車「スズライト」をはじめ、『全国統一価格47万円』という驚きの価格で登場し、大ヒットした「アルト」、軽ワゴンという新しいジャンルを創造した「ワゴンR」、スズキ小型車として最短となる3年8ヶ月で世界累計生産100万台を突破した世界戦略車「スイフト」など、その時代に合ったお客様の望まれているものを「やрмаいか」精神で造り続けてまいりました。

織機から始まり二輪、四輪と自動車産業に挑戦したスズキのものづくりの歴史は100年を超えました。そして現在、海外生産会社はインド、ハンガリーなど23の国や地域にあり、また196の国と地域でお取引をいたしております。

#### 世界戦略車 スイフト

2004年11月、スズキは新しいコンパクトカーを世界に向けて発信しました。

世界の人たちのところをとらえ、世界のさまざまな地域の人たちに愛されるには、どんなコンセプトで、どんなスタイルで、どんな性能を実現するのが、最もスズキらしいのか。コンパクトカーにかけるスズキの熱い想いを、妥協なくカタチにすることが、「スイフト」という世界戦略車に与えられた使命でした。

スイフトの開発は、スズキの世界戦略における新たな挑戦でした。日本・ハンガリー・インド・中国の4拠点で、同一品質・同一性能による一斉立ち上げという難題に取り組みました。また、新しい試みとしてデザイナーが欧州に長期滞在し、デザインコンセプトを創出。また、走行性能の熟成においても、欧州のテストコースなどを選び、ヨーロッパ人ドライバーも含め入念なテストを繰り返しました。

スイフトはこれらの挑戦の集大成ともいえるスズキらしいスポーティーなスタイリングとハンドリングをもつコンパクトカーです。

欧州で求められるもの。それは、日本車とは一線を画すハンドリングでしょう。それがあからこそ所有することに誇りが持てる。オーナーの誇りのためにスイフトはあくまでもハンドリングを追求しました。欧州では長距離を走るだけに、走りはもちろん、乗り心地についても要求度が高く、それを満たすレ



新型スイフト

ベルに仕上げました。

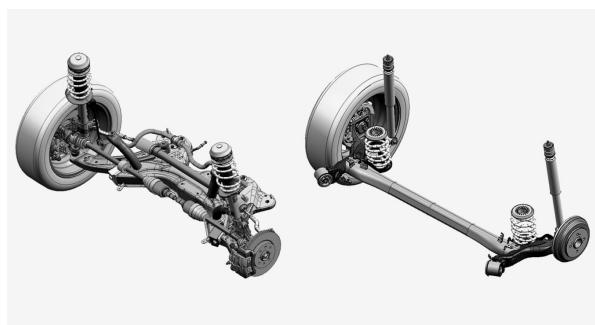
2005年9月にはスイフトスポーツを追加発売。スイフトの走りのポテンシャルをさらに高め、ズキらしさである「スポーツ」というDNAを注ぎました。スイフトは2004年の発売以来、世界で60以上の主要な賞を受賞するなど各国で高い評価をいただき、世界ブランドとして成長してきました。

### スイフト第2世代

2010年8月、第2世代となる新型スイフトを発表しました。

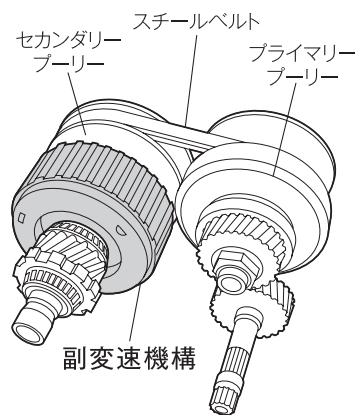
新型スイフトはスポーティーな走りと時代の要請である低燃費という相反する難題をクリアするためにプラットフォームを一新しました。高張力鋼板を多用するとともに効果的な構造を突き詰めることで、ボディーサイズを拡大しながら車両重量を10kg軽減(2WD・CVT)。より軽量でより高剛性なボディーを得ました。

足回りではリヤトーションビーム断面構造を変更するなど、軽量化しながらもロール剛性を25%向上、



新型スイフト リヤトーションビーム式サスペンション (写真右)

操縦安定性を高めました。さらに欧州での徹底した走行テストを重ねて走りを熟成させました。また、副変速機構付CVTを採用、低速での力強い発進と高速域での低燃費を両立させ、走る喜びと環境性能を高い次元で両立させています。



副変速機構付新CVT

### おわりに

#### 「価値ある製品」

創業以来変わることのない、スズキのものづくりの根底にある言葉です。

四輪・二輪・船外機などスズキの製品には、「やらまいか」という新しい価値の創造に挑戦する造り手の想いが込められています。これからも世界中でお客様にご満足いただけるような「価値ある製品」を造り続けてまいります。